

「農業技術の匠」：^{よしだ}吉田 ^{よしかず}義一さん（神奈川県川崎市）

～ ハナモモ等「枝折物」の調整・出荷技術 ～



【吉田 義一さん】



ハナモモの枝折物

1 技術確立の背景(目的)

吉田義一さんは、古くからハナモモを中心とした枝物の産地(川崎市馬絹^{まぎぬ})で就農し、「枝折物」の生産を行っています。枝折物は調製・出荷に高い技術を要し、労力のかかる手作業が中心となっていました。このため、生産量を増加する(規模拡大)ために、それらの作業を機械化等により、省力化(作業の改善)を試みました。

2 技術概要(技術効果)

(1) 機械枝折技術

市販の切花用結束機の利用法を考案し、手で枝折を行うのとほぼ同様に結束を行う位置や枝折方の手順を試行錯誤の上確立し、省力化および量産に効果をあげています。

(2) 地上室^{むろ}による蒸かし技術

かつて、地面に縦穴や横穴を掘って作っていた地下室を、作業性の向上を図るため鉄筋コンクリートの「地上室」へと改善しました。

地上室は、地下室に比べ、室内部の保湿や加温条件が大きく変化しますが、市販の器具(電熱器と寸胴鍋、サーモスタット)を用いて、ほぼ地下室と同様の条件となるよう調整を行い、技術の確立を図っています。

3 技術の地域への活用状況(普及状況)

手枝折による伝承技術に熟練していたため、結束機を利用しても生産物の品質を落とすことなく、作業時間を1/3～1/5程度に短縮することができ、省力化が図られています。

また、地上室による作業環境の改善は、作業効率を高め、腰痛など職業上の疾病予防や軽労化による生産量拡大に結びついています。

これらのことから、吉田さんが確立した結束技術や地上室による蒸かし技術は、作業改善に著しい効果が認められたため、馬絹地域内はもちろん県内外にも普及しています。

さらに、生産量を増やす事が出来るため、馬絹地域の後継者が安定して就農するようになり、産地としての維持発展に寄与しています。



【機械で枝をしおる】

※最寄りの普及指導センター { 神奈川県農業技術センター横浜川崎地区事務所
住所：神奈川県横浜市緑区三保町2076
TEL：045-934-2374

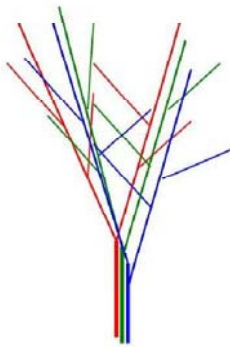
<「農業技術の匠」のポイント>

基本は伝承されてきた手作業と同様の技術

① 枝折物結束方法の改良

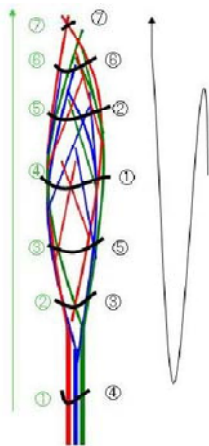
枝折前

枝折後



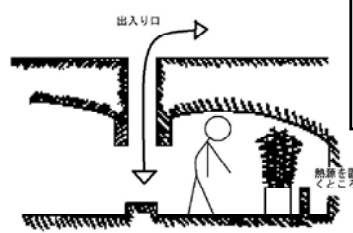
手枝折(従来)
基本的に下から上の方に
向かってクゴで留める。

機械枝折(改良)
まず留めたいところから
留める。真ん中を留めて
から両側を留めることが
多い。

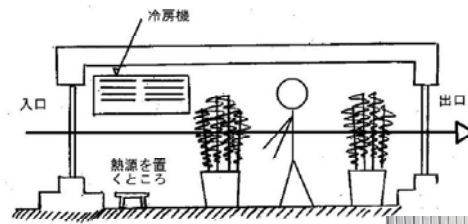


② 蒸かし用の室の改良

～ 地下むろから地上むろへ ～



地下むろ(従来)
出入り口は縦穴であり、重
量物の運ぶことは足もとが
不安定で重労働であった。



地上むろ(改良)
重量物の縦方向の移
動がなくなり、軽労
化が図れた。両側に
扉があるため動線も
よくなった。



ハナモモの生育と栽培管理

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生育経過	芽吹き	休眠長期		花芽分化			花芽充実	落葉	休眠期	休眠覚醒		開花
作業名		病害虫防除	病害虫防除							収穫・蒸かし	病害虫防除	
作業方法		アブラムシ 薬剤散布	シンクイムシ 薬剤散布	除草			秋肥			枝切り	摘葉病	薬剤散布

この頃の防除は展葉を正常に行わせ、冬から春にかけて消耗した養分を補うために重要な作業。同時にカイガラムシも防除する。

花芽分化を前に樹の良い状態を保ちたいため、実施が重要。

秋肥の施用を前に、施肥効果が十分に現れる様に除草を実施。

分化した花芽の充実を図るため、施肥の実施。かつては春肥の1回であったが、果実収穫用のモモの栽培を参考に施す様になった。

・切り枝結束は、1月中旬以降随時行う。枝折り束・丸束仕上げとし、水揚げを兼ね、入室日まで貯蔵する。
・肥料は、春秋2回施肥としている。
・収穫は2年に1回の隔年切りが基本。

新葉の展開が正常にいかなくなるため、確実に実施する事が必要。

